

生命表の概要

作成目的等

生命表（完全生命表及び簡易生命表）は、ある期間[※]における死亡状況（年齢別死亡率）がその後も変化しないと仮定したときに、各年齢の者が1年以内に死亡する確率や、平均してあと何年生きるかという期待値などを、死亡率や平均余命などの指標によって表したものであり、死亡状況を厳密に分析することを目的としている。

※「ある期間」とは、基本的には1年間であるが、戦前などにおいては複数年間を対象として生命表が作成される場合があった。

完全生命表は、明治24年から31年の8年間を対象としたものから作成し、近年は国勢調査年を対象として5年ごとに作成している（直近は平成17年）。簡易生命表は、昭和23年を対象としたものから毎年作成している。

作成方法等

1 基礎情報

- 完全生命表は、国勢調査による日本人人口（確定数）、人口動態統計（確定数）をもとに、精緻なデータ及び計算方法により作成
- 簡易生命表は、推計人口による日本人人口、人口動態統計月報年計（概数）をもとに、死亡率を除いて完全生命表とほぼ同様の方法により作成

2 作成方法の概要

- ① 人口と死亡数から年齢別の死亡率を計算。
ただし、1歳未満は区分を細かくして計算
 - 死亡率の計算
 - a 1歳未満の場合：出生数と死亡数から計算
 - b 1歳以上の場合：完全生命表は、出生の月別人口と死亡数から計算
簡易生命表は、中央人口と死亡数から計算
- ② ①をもとに、生存率、生存数、死亡数、死力、定常人口、平均余命等の生命関数を計算。
ただし、1歳未満は区分を細かくして計算

利用状況

「平均寿命」（0歳の平均余命）は、我が国の死亡状況を集約したものであり、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用

- 将来推計人口の計算の基礎資料
- 法令上の利用（例：相続税法に基づく財産評価（定期金に関する権利の評価）における参考資料）
- 年金制度の見直し、高齢者の雇用対策等の保健、医療、福祉などの諸施策の基礎資料
- 民間保険会社における年金保険料率算出の基礎資料等
- 国際連合が「Demographic Yearbook」（人口統計年鑑）を作成するために提供する指標